

## 共立女子大学大学院 家政学研究科 被服学専攻 カリキュラムマップ

NO.	科目区分	科目コード	科目名称	配当年次	単位数	到達目標	DPI-1 審観性・自律性―学識と倫理	DPI-2 審観性・自律性―主体的判断力	DP2-1 課題発見・解決力―社会的役割	DP2-2 課題発見・解決力―課題解決力	DP3 リーダーシップ
1	共通科目	2209101	家政学総合研究	1	2	知識基盤社会を支える人材として被服学、食物学、建築、デザイン、児童学における高度な知識・技術と高い倫理精神を身に持つことができる。 将来の社会や環境の変化に対応するために、将来の社会や環境の変化に対応するために、被服科学、服装文化に関する高度な学識に基づき、主体的に考査し、自律的に行われることができる。 被服学、食物学、建築、デザイン、児童学の実践的な社会的・経済的価値の創出、もしくは、人間的・社会的意義の探求の観点から貢献できる。 被服学、食物学、建築、デザイン、児童学における多様な課題を見出し、論理性や批判的思考に基づき、自ら課題解決に向けて仮説を構築し、検証することができる。 被服学、食物学、建築、デザイン、児童学という異なる分野・立場の異なる人々と協働により、客觀性・自己評価・批判的思考・発表などのコミュニケーション等の乳用的能力を修得し、計画的に行動する上で、広く社会に貢献することができる。	知識基盤社会を支える人材として、広い視野の人材として、高い倫理観とともに、被服科学、服装文化に関する高度な学識を身に持つ、主体的に思辨的・批判的・意思決定的・行動的・倫理的・自律的・自己評価的・批判的思考に基づき、自ら課題解決に向けて仮説を構築し、検証することができる。	社会や環境の変化に対するために、被服科学、服装文化に関する高度な学識を身に持つ、主体的に思辨的・批判的・意思決定的・行動的・倫理的・自律的・自己評価的・批判的思考に基づき、自ら課題解決に向けて仮説を構築し、検証することができる。	被服学の実践的な社会的・経済的価値の創出、人間的・社会的意義の探求の観点から貢献することができる。	被服学に関する多様な課題を見出し、論理性や批判的思考に基づき、自ら課題解決に向けて仮説を構築し、検証することができる。	専門的な知識・技術の異なる他者と協働して課題に取り組み、計画的に行動することで、広く社会に貢献することができる。
2		2201101	被服材料学特論	1	2	1. 繊維の構造について、高分子の特性を理解した上で説明することができる。 2. 繊維の筋系過程での構造形成について、高分子の特徴を理解した上で説明することができる。 3. 高分子の結晶化について、理論的に説明することができる。	◎	◎	○	○	○
3		2201123	被服管理学特論	1	2	1. 織物製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を正確に説明できる。 2. 理解した内容をレゼンテーション形式で用いてわかりやすく説明することができる。 3. 洗濯や染色に関する問題を見つけて、実験計画を立て、適正な実験を行なうことができる。 4. 実験結果を深く考え、考査した後、文献を利用して論文形式の研究レポートを書くことができる。 5. 論文講読や研究レポートの作成を通じて、さらなる課題を見出すことができる。	◎	◎	○	○	○
4		2201107	染色学特論	1	2	1. 織物製品には、各種の染色、加工がなされていることを理解し、説明できる。 2. 染料、染色と各種加工に関して、科学的に説明できる。 3. 修復した織物と接觸により、ファッショング・アハール関連業務において的確な判断ができる。 4. ファッショング・染料のおり抜きに関する染色の観点から科学的視点を持つ事ができるようになる。	◎	◎			
5		2201128	被服環境学特論	1	2	1. 被服が有する機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学および社会科学的な見地から理解し説明できる。 2. 環境、被服、人間のかかわりを考え問題点について思考し、解決のための方法論を考え結論を立てられる。 3. 師生の先生として、講義と演習を通して、アハール企業戦略・マーケティング戦略に関する総合的な理解の養成を図り、基礎的な用力を身につける。	◎	◎	○	○	○
6		2201130	アハール行動論特論	1	2	具体的な到達目標として、以下の2点を挙げる。 1. アハール関連企業のマーケティング戦略について、資料を通して理解ができ、問題点を指摘できようになる。 2. 与えられた課題に対し、基本的なマーケティングプログラムを作成できようになる。	◎	◎	○	○	○
7		2201139	被服心理学特論	1	2	被服行動などの背景にある心理について積極的な関心を向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。 2. 心理学の歴史と定義について体系的に理解することができる。 3. 心理学の基本的知識について幅広く理解することができる。 4. 実験結果を深く考え、考査した後、文献を利用して論文形式の研究レポートを書くことができる。 5. 心理学分野の研究方法のうち、質的方法について包括的に理解することができる。 6. 研究仮説を生成するために、ガイドラインを的確かつ幅広く活用する技術を身につけることができる。 7. 授業で学んだことを整理して、幅広い見識に基づいたレポートを作成することができる。	◎	◎	○	○	○
8		2201141	被服コンピュータ応用特論	1	2	1. ファッションプロダクトのサブライチーンに沿る技術課題を理解して、正確に説明ができる。 2. 課題解決に向けた具体的な情報技術の応用方法を検討して、新しい提案ができる。	◎	◎	○	○	○
9	被服科学領域	2201104	被服材料学演習	2	2	1. 織物の構造について、高分子の特性を理解した上で説明することができる。 2. 織物の筋系過程での構造形成について、高分子の特徴を理解した上で説明することができる。 3. 高分子の結晶化について、理論的に説明することができる。 4. 実験結果を深く考え、考査した後、文献を利用して論文形式の研究レポートを書くことができる。	○	○	○	○	○
10		2201124	被服管理学演習	2	2	1. 織物製品の洗濯、保存、管理に関する専門知識を正確に説明できる。 2. 理解した内容をレゼンテーション形式で用いてわかりやすく説明することができる。 3. 洗濯や染色に関する問題を見つけて、実験計画を立て、適正な実験を行なうことができる。 4. 実験結果を深く考え、考査した後、文献を利用して論文形式の研究レポートを書くことができる。	○	○	○	○	○
11		2201129	被服環境学演習	2	2	1. 被服が有する機能のうち被服と環境のかかわりを自然科学および社会科学的な見地から理解し説明できる。 2. 環境、被服、人間のかかわりを考え問題点について思考し、解決のための方法論を考え結論を立てられる。 3. 師生の先生として、講義と演習を通して、アハール企業戦略・マーケティング戦略に関する総合的な理解の養成を図り、基礎的な用力を身につける。	○	○	○	○	○
12		2201131	アハール行動論演習	2	2	具体的な到達目標として、以下の2点を挙げる。 1. アハール関連企業のマーケティング戦略について、資料を通して理解ができ、問題点を指摘できる。 2. 与えられた課題に対し、基本的なマーケティングプログラムを作成できようになる。 (技術) 3. 専門的な知識・技能の異なる者と協働し、マーケティング戦略や消費者意匠および行動の変化による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。	○	○	○	○	○
13	専門教育科目	2201140	被服心理学演習	2	2	被服行動などの背景にある心理について積極的な関心を向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。(興味・意欲・態度) 2. 心理学の基礎と定義について体系的に理解することができる。(知識・理解) 3. 心理学の基本的知識について幅広く理解することができる。(知識・理解) 4. 心理学分野の研究方法のうち、質的方法について包括的に把握することができる。(知識・理解) 5. 心理学分野の研究方法のうち、質的方法について包括的に理解することができる。(知識・理解) 6. 研究仮説を生成するために、KJ法を的確かつ幅広く活用する技法を身につけることができる。(技術) 7. 授業で学んだことを整理して、幅広い見識に基づいたレポートを作成することができる。(思考・理解) 8. 専門的な知識・技能の異なる者と協働し、心理学分野の研究結果による課題解決や社会的・経済的価値の創出について建設的な議論ができる。	○	○	○	○	○
14		2201142	被服コンピュータ応用演習	2	2	1. ファッションプロダクトのサブライチーンに沿る技術課題を理解して、正確に説明ができる。 2. 課題解決に向けた具体的な情報技術の応用方法を検討して、新しい提案ができる。	○	○	○	○	○
15		2201133	染織文化史特論	1	2	1. 逸物・包装の実作品に使用されている技術の時代的特徴や、技法の違いによる意匠表現の違いなどを理解する。 2. 日本の染織・服飾の具体的な特徴を観察した結果を、論理的に言葉で表現できるようになる。	◎	◎	○	○	○
16		2201118	服装史特論	1	2	1. 西洋の服装の歴史における既往の研究を俯瞰した上で、新たな学術的・文化的な価値の創出が期待される研究課題を設定することをできる。 2. 研究課題を設定するに際して、問題を深め、問題を解決することの学術的・文化的・社会的な意義を的確に説明でき、専門家と円滑なコミュニケーションがとれる。 3. 自ら設定した研究課題について研究方法を多面的に検討し、具体的な研究計画に基づいて研究を実行できる。	◎	◎			
17		2201137	被服平面造形学特論	1	2	1. 日本の伝統的衣装における形状・構造・寸法・縫綫、裁断に関する知識を関連付けて染織文化を理解し、理解することができる。 2. 染織文化財の作品の時代的特徴を予測することができる。(思考・判断・表現)作品の特徴に合わせて的確な保存方法を理解し、的確に説明ができる(知識・理解)。4.作品の特徴に合わせて的確な新作品制作をすることが出来る。	○	○	○	○	○
18		2201125	被服造形学特論	1	2	1. 人体と被服のかかわりを静態的・動態的に捉え、研究者の視点から諸要因や評価法について理解する。 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、事例を挙げて具体的な提示をしながら説明できる。 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。	○	○	○	○	○
19	履修文	2201132	被服意匠学特論	1	2	1. 学術論文等の文献を読み解き、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。 2. 被服デザインとファッションデザインの概念を理解し、事例を挙げて具体的な提示をしながら説明できる。 3. 市場動向の分析方法を理解、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。	○	○	○	○	○

20	化領域	2201134	染織文化史演習	2	2	1. 染縫・服飾の美作品に使用されている技法の時代的特徴や、技法の違いによる意匠表現の違いなどを理解する。 2. 日本の伝統的衣装の具体的な特徴を観察し、結果を、論理的に言葉で表現できるようになる。 3. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、染織文化史に関する学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
21		2201138	被服平面造形学演習	2	2	1. 日本の伝統的衣装における形状・構造・寸法・縫製・裁断に関する知識を関連付けて染織文化を理解し、的確に説明することができます。(知識・理解) 2. 染織文化の作品の時代的特徴を予測することができます。(思考・判断・表現)作品の特徴に合った染織作品を作ることができます(知識・理解)。作品の特徴に合わせて的確な被服作品を作ることができます(技能) 3. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、日本の伝統的衣装や染織文化財に関する学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22		2201126	被服造形学演習	2	2	1. 人体と被服のかわりを静態的・動態的に捉え、研究者の視点から膝窩因や評価法について理解できる。(知識・理解) 2. 着心地の良さや衣服設計における諸問題を認識し、解決に導くための研究方法等を考察することによって実現する。(思考・判断・表現) 3. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服造形に関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
23		2201117	被服意匠学演習	2	2	1. 学術論文等の文稿を精読し、その内容を理解した上で、新規かつ有用な情報について説明ができる。(知識・理解) 2. 市場動向の分析方法を理解し、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。(技能) 3. 市場動向の分析方法を理解し、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。(技能) 4. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服デザインとファッションデザインに関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
24	特別研究	2201120	被服学特別研究	1・2	10	1. 専門領域における既往の研究を俯瞰した上で、新たな学術的・社会的な価値の創出が期待される研究課題を設定することができます。 2. 研究課題を設定する学術的・社会的な価値の創出の知識・理解を深め、課題を解決することの学術的・社会的な価値の創出に貢献する。 3. 市場動向の分析方法を理解し、実践して新しい視点で企画・デザイン提案ができる。(技能) 4. 専門的な知識・技能の異なる他者と協働し、被服デザインとファッションデザインに関連した社会的・経済的価値や学術的・文化的価値の創出について建設的な議論ができる。 5. 被服学特別研究に取り組むことにより、専門的な知識に根差した「問題発見・解決」のための高度な能力を修得している。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>